

2018年（平成30年）4月18日

構内照明設備のLED化について

当社では、事業活動におけるエネルギー消費原単位を削減することにより、地球温暖化防止に貢献することを目的として、HD300形式ハイブリッド機関車等の省エネ型機関車の導入や、燃料改質器の取付けによるフォークリフトの省エネ化等、さまざまな取組みを行っています。

貨物駅構内は、コンテナ積卸作業等が昼夜関係なく行われるため、夜間作業に必要な照明設備を多数所有しています。現在は主に水銀灯を使用しており、これまでも老朽設備取替や設備改良時にLED照明等による省エネ化を進めてきましたが、今般、2026年度末までに構内照明設備をLED化し、水銀灯の使用を廃止することとしました。

当社は今後も、地球温暖化防止を目的として省エネ化への取組みを進めてまいります。

1. LED化する構内照明設備数

14,567個（うちすでに省エネ化済み数 1,941個（13.3%））

2. CO2排出削減量

全ての構内照明設備（水銀灯）をLED化した場合のCO2排出削減量
6,333 t／年

（参考）LED化しなかった場合に必要となる森林面積

751ha（ヘクタール）※東京ドーム約160個分の面積に相当

3. その他

- LED化により、電力料金及びメンテナンスコストの削減も可能となります。
- 水銀・水銀化合物の人為的な排出から人の健康や環境を保護することを目的として、2013年8月に発効した「水銀に関する水俣条約」によって、2021年以降、水銀製品の製造・輸出入が禁止となり、水銀電球の交換が困難となります。

（参考）水銀灯照明とLED照明



水銀灯照明（東福山駅）



LED照明（東福山駅）